

平成28年度
収支決算
まとめ

納付金が減少した一方で
医療費（保険給付費）が増加し、
赤字決算に

平成28年度の事業報告および収入支出決算報告が、
7月6日に開催された第66回決算組合会において承認されました。

健保組合の全国組織である健康保険組合連合会（以下、健保連）が発表した「平成29年度健保組合予算早期集計結果の概要」によると、全組合の7割超が赤字予算を編成し、経常赤字の総額は3060億円となるということです。その要因としては、高齢者医療への過重な納付金の負担があげられます。増加する支出に対応するため、多くの健保組合が積立金を取り崩したり、保険料率を引き上げて対応しています。

健保連では、さらに高齢化がピークを迎える2025年までの今後8年間で、健保組合の納付金の負担は1人当たり1・5倍程度にまで膨らむと推計しています。このままでは、健保組合の持続可能性が揺らいでしまいます。国を挙げて、将来を見据えた皆保険制度を堅持するための展望を描き、その議論を深めることが望まれます。

健康保険

当健保組合の平成28年度決算状況につきましては、経常収支で赤字となりました。

収入面では、健康保険収入は前年度より298万7千円少ない2億1031万8千円でした。支出に對して不足する収入額を補うために3483万2千円を繰り入れました。

一方、支出面については、皆さんの医療費や一時金などに充てられる保険給付費は、前年度より1794万5千円多い1億793万8千円でした。

また、高齢者医療制度を支える財源として負担している納付金は、前年度より2421万9千円少ない8445万4千円でした。減少したとはいえ納付金は支出全体の33%を占めており、依然として大きな財政的負担となっております。

保健事業費には2040万4千円を執行して、特定健診・特定保健指導などを実施しました。

以上のように、平成28年度決算も赤字となりました。

介護保険

介護勘定の収入支出決算勘定は、収入2219万5千円、支出2124万円、差引額は95万5千円でした。



平成28年度
収入支出の決算概要

一般勘定

収入

科目	決算額
健康保険収入	2億1,031万8千円
調整保険料収入	338万9千円
繰入金	3,483万2千円
国庫補助金収入	121万4万円
財政調整事業交付金	125万7千円
雑収入	625万1千円
合計	2億5,726万1千円

支出

科目	決算額
事務費	3,352万3千円
保険給付費	1億793万8千円
法定給付費	1億781万8千円
付加給付費	12万円
納付金	8,445万4千円
前期高齢者納付金	3,056万5千円
後期高齢者支援金	5,082万2千円
退職者給付拠出金	306万6千円
老人保健拠出金	1千円
保健事業費	2,040万4千円
財政調整事業拠出金	339万1千円
連合会費	37万7千円
積立金	80万円
雑支出	11万4千円
合計	2億5,100万1千円

介護勘定

収入

科目	決算額
介護保険収入	2,217万3千円
雑収入	2万2千円
合計	2,219万5千円

支出

科目	決算額
介護納付金	2,124万円
合計	2,124万円

平成28年度決算収支の割合

